第二十二講・宮沢賢治②（伝記）

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

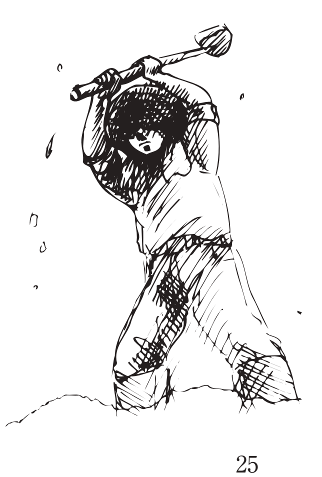
その後、一九二一年（大正十年）、稗貫農学校の教師になったが、童話や詩を書けば書くほど、きびしい自然の中で生きる①農民たちへの熱い思いがわいてくる。

（教師として、生徒たちをりっぱに育てることも大切な仕事である。だが、それだけで、本当の農民の苦しみは分からない。雨がふれば、大水で田んぼが流され、日照りが続けば、いねがかれるのをじっと見ているほかにどうすることもできない人たち。その人たちのことを思うと、このまま教師をしてはいられない。その人たちといっしょになって働き、その人たちのために、今すぐ役立たなくてはならないのだ。）

そう思うと、もうがまんができなかった。一九二六年（大正十五年）、賢治は、校長や両親の止めるのをふり切って、きっぱりと教師をやめ、自ら農民として生きることを決心した。

賢治は、北上川のほとりの、林に囲まれたおかの上の家に、独りで住むことにした。この家は、妹のとし子が静養をしていた所である。とし子がなくなった後、ずっと空き家になっていた。

賢治は、大工さんにたのんで、いたみかけた土台を取りかえ、階下の部屋を造りかえてもらった。ここへ農民たちを集めて、新しい未来について話し合おうというのだ。二階は書さいにして、農作業のできない日は、読



©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

書をしたり文章を書いたりすることにした。

　賢治は、この家にこしてくると、さっそくあれた土地を切りひらいて畑を作り、なす、かぼちゃ、きゅうり、トマトなどのなえを植えた。朝は暗いうちに起きだし、夜おそくまでどろまみれになって働いた。食べる物といえば、げん米とみそしると野菜ぐらいなもので、肉類はいっさい口にしなかった。ふろに入る代わりに、いど水で体をふいた。

　②こんなくらしをしていると、農民たちの苦労がいたいほどによく分かる。これまでのどんな生活よりもすばらしいものに思えてくる。この生活からは、人間のみにくい欲望（よくぼう）はいっさいわいてこない。自然のふところにだかれて、宗教（しゅうきょう）の教えを守り、農民たちのためにつくすだけである。

　ある日、農学校の卒業生が、この家にたずねてきたとき、賢治は破（やぶ）れたシャツ一枚（まい）でねむっていた。うでは、ぶゆにくわれてはれあがり、足首には、くわで切った傷口（きずぐち）があった。それなのに包帯もせず、ヨードチンキがぬってあるだけだ。

（どうして、こんなにまでして、自分自身を苦しめるのだろうか。）

　卒業生は、賢治の変わり果てたくらしぶりにむねがいっぱいになった。やがて、目を覚ました賢治に、卒業生が言った。

「先生、その傷口からばいきんでも入ったらどうするのです。」

　すると、賢治は、③わざと傷口をたたいてみせ、

「だいじょうぶ。おかげで、わたしも一人前の農民になることができそうだ。初めは、一時間も働くと体がいたくてたまらなかったが、今じゃ何時間働いても平気です。」

と言った。

〈西本鶏介（にしもとけいすけ）「宮沢賢治」より〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) ――線①「農民たちへの熱い思い」とありますが、どのような思いですか。次の中からもっともふさわしいものを選び、記号で答えましょう。

ア　きびしい自然の中で働いてくれている農民への感謝（かんしゃ）の思い。

イ　きびしい自然の中で苦労している農民たちのために何かをしたいという思い。

ウ　きびしい自然に立ち向かっている農民たちの生き方にあこがれる思い。

(2) 賢治が教師をやめたときの気持ちとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　教師がいやでたまらず、自由になりたいという気持ち。

イ　自分には教師の仕事は向いていないとあきらめる気持ち。

ウ　教師も大切だが、自分は農民になり、農民のために働きたいという強い気持ち。

(3) 教師をやめた賢治は、どこにある家に住みましたか。文章中からぬき出しましょう。

(4) 賢治は、次の部屋をどのような部屋として使おうとしましたか。それぞれ答えましょう。

㋐　階下の部屋

㋑　二階の部屋

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(5)　――線②「こんなくらし」とありますが、賢治はどのようなくらしをしていたのですか。次の点について、それぞれ二つずつ簡単（かんたん）に答えましょう。

あ　賢治の働きぶりについて

い　賢治の衣食住について

(6)　(5)のようなくらしを、賢治はどのように考えていますか。文章中から二十字以内でぬき出しましょう。

(7)　――線③「わざと傷口をたたいてみせ」たのは、なぜですか。次の中からふさわしくないものを一つ選び、記号で答えましょう。

ア　心配する卒業生を安心させたかったから。

イ　卒業生の言うことをばかげていると思ったから。

ウ　自分が一人前の農民に近づいたと示（しめ）したかったから。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十二講・確認テスト

次の□に動物を入れてことわざを完成させなさい。

１　□も歩けば棒に当たる
ア　犬　イ　ねこ　ウ　豚　エ　牛

２　□をかぶる
ア　犬　イ　ねこ　ウ　鳥　エ　魚

３　月と□
ア　かめ　イ　つる　ウ　どじょう　エ　すっぽん

４　泣きっ面に□
ア　かぶと虫　イ　はち　ウ　みみず　エ　ちょうちょ

５　□の耳に念仏
ア　牛　イ　馬　ウ　犬　エ　ねこ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二十二講　宮沢賢治②（伝記）

一題目

(1) イ
(2) ウ
(3) 北上川のほとりの、林に囲まれたおかの上の家
(4) あ(例)農民たちと新しい未来について話し合う部屋。
　い(例)農作業のできない日に読書をしたり文章を書いたりするための書さい。
(5) あ・(例)あれた土地を切りひらいて畑を作った。
　・(例)朝早くから夜おそくまでどろまみれになって働いた。
　い・(例)食べる物は、げん米とみそしると野菜ぐらいだった。
　・(例)ふろに入る代わりに、いど水で体をふいた。
　〈各順不同〉
(6) これまでのどんな生活よりもすばらしい(もの)
(7) イ

〈確認テストの解答〉

１ ア　２ イ　３ エ　４ イ　５ イ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。